

平成 14 年 10 月 11 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海沖合鉦区
カシャガン構造に続きカラムカス構造でも原油の発見に成功

国際石油開発株式会社(インペックス)は、同社子会社インペックス北カスピ海石油(株)を通じて探鉦事業を推進しているカザフスタン共和国 北カスピ海沖合鉦区において、カラムカス構造に試掘井「カラムカス-1 号」(Kalamkas-1)を掘削し、引き続き実施した産出テストにより、日産 2,300 バレルの原油の産出を確認した。なお、この産出量は環境面への配慮から、制限されたものとなっている。

同鉦区内には、石油・ガスを胚胎する可能性の高い複数の大規模な構造が存在しており、今回のカラムカス構造における発見は、本年 6 月 30 日に商業発見宣言したカシャガン構造(推定可採埋蔵量 70 億~90 億バレル)に続くものである。今後テスト結果の評価を行い、本鉦区の探鉦価値が高まることを期待する。

今後の本鉦区における作業計画としては、商業発見宣言したカシャガン構造について、2003 年第 1 四半期を目途に開発計画を決定することとしている一方、2003 年に同鉦区内に存在するカシャガン構造及びカラムカス構造以外の 3 つの構造において試掘作業を引き続き実施することとしている。

本プロジェクトは、当社を含む日米欧社の国際コンソーシアムがカザフスタン共和国と締結した生産分与契約にもとづき推進している探鉦・開発事業である。

※) 補足説明

1.北カスピ海鉦区は、東部約 4,300km²、西部約 1,275km²(合計約 5,575km²)の 2 つのブロックよりなり、カラムカス構造は、カザフスタン共和国アティラウから南南西約 170km のカスピ海域に位置する水深約 9m の西部ブロックにある。

2.試掘井「カラムカス-1 号」(Kalamkas-1)は、2002 年 8 月 4 日より開抗し、深度 2,360m で掘止め、産出テストの結果 64 分の 32 インチチョークで日産 2,300 バレルの原油産出を確認した。なお、カラムカス構造の埋蔵量は、今後の評価作業の結果を待つ必要がある。

3.国際石油開発(株)は、平成 10 年 9 月に本鉦区の権益の 1/14 をカザフスタンの国営石油会社 KCS(Kazakhstan Caspi Shelf)社から弊社の子会社であるインペックス北カスピ海石油(株)を通じて取得し、欧米コンソーシアムの一員となり、その後、BP 社および Statoil 社との間で昨年 9 月に各々、締結された権益譲渡協定に基づき鉦区権益を追加取得している。現在のコンソーシアム各社の参加権益比率は、当社(インペックス)8.33%、British Gas 16.67%、ConocoPhillips 8.33%、Eni 16.67%、ExxonMobil 16.67%、Shell 16.67%、TotalFinaElf 16.67%となっている。

4.インペックス北カスピ海石油(株)は、1998 年 8 月に設立され、石油公団の投融資を受けるとともに、石油資源開発(株)および三菱商事(株)からの出資を受けている。(現在の資本金は、346 億 2,000 万円、出資比率は、石油公団：50%、インペックス：45%、石油資源開発および三菱商事：各 2.5%)

